

概要

担い手の育成と確保を目的に、新規就農者等の定着と段階的な経営発展を支援したところ、新規就農者等の定着が図られた。

更に農業経営の改善と発展を目指す意欲的な畜産経営を対象に、技術的、経済的な経営の問題点の分析と解析を行い経営改善につなげていくとともに、経営プランの作成に向けて支援を行った。

経営プラン作成以降の対象者には、次世代のかがわ農業の中核を担う農業経営者を育成するほか、優れた経営感覚を有するトップ経営体を育成するためにそれぞれの対象者に段階的な支援を行った。

具体的な成果

(1) 農業基礎セミナーによる基礎知識の習得

新規のセミナー生（就農1～2年）に対する支援を重点事項として取組を行った。セミナー生同士の交流を推進するために開講式、研修会などの集合研修、閉講式を実施するとともに、巡回指導の充実を図った。これらの活動を通じて、新規就農者の定着と知識や技術の習得につながる取組を進めることができた。

(2) ステップアップセミナー生の経営力習得支援

農家毎の経営力に応じて段階的な指導を実施し、解決すべき課題の整理、解決方法の整理ができた。経営プラン作成できた経営体は3経営体に至った（酪農1、肉牛1、養鶏1）。

(3) 経営発展を目指す中核的な経営体の支援

中核経営体の支援については、経営ビジョン達成のための経営改善手法の検討や経営発展への動機付けを進めた。

(4) トップ経営体を目指した経営強化プランの支援

飼料価格高騰等の情勢も厳しい中、経営強化プラン具現化のための直近対応できる手法について検討を進めた。

普及指導員の活動

令和4～5年

■ 農業基礎セミナーによる基礎知識の習得

就農後5年以内の新規就農者に対して、農業セミナー（畜産コース）の開講式と閉講式を対面で行い、それぞれ集合研修を同時に実施。

現状チェック表で明らかとなった課題について巡回指導を実施。

■ ステップアップセミナー生の経営力習得支援

取組1年目は課題の整理、取組2年目は課題の解決方法の整理、取組3年目以降のセミナー生は、経営ビジョンの作成について支援を実施。

■ 経営発展を目指す中核的な経営体の支援

経営プランを作成済の経営体について支援を実施。

■ トップ経営体を目指した経営強化プランの支援

経営強化プラン達成に向けた支援を実施。

■ 各段階のセミナー生に呼びかけ、養鶏及び酪農の合同視察研修を1回実施。

普及指導員だからできたこと

- 経営の規模、内容の異なる対象者の集合研修を行うことで、経営に対する様々な考え方を知るきっかけを作ることができた。
- チームで普及指導に取り組む中で、経営体の重要な方針などを決める際に、家族間のそれぞれの立場に添ったアドバイスを行うことで問題解決につなげることができた。

農業（畜産）の担い手の育成支援

1. 取組の背景

畜産農家の高齢化や厳しい経営環境が続く中、県内の畜産農家戸数は年々減少しているが、毎年少人数ながら新規就農者が確保されている（図1）。就農形態や経営における役割などが個々に異なるため、それぞれの課題を把握、整理し、就農年数や技術レベルに応じた段階的な支援により、新たな県内畜産の担い手として定着できるよう支援していく必要がある。

また、県内畜産農家戸数の減少により、地域内の同世代の仲間が少ないため、仲間づくりも必要となっている。

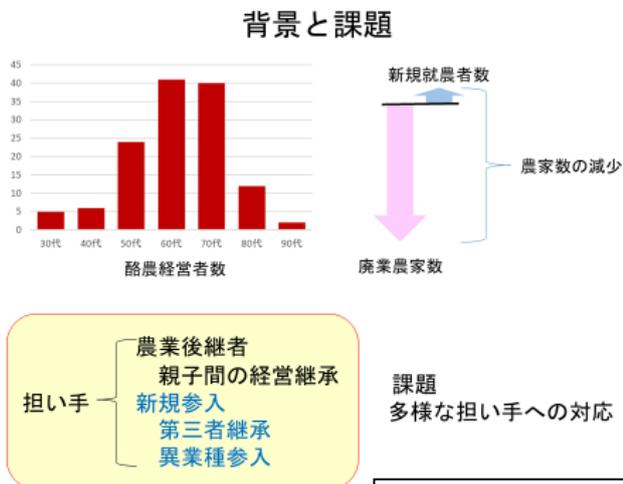


図1 背景と課題

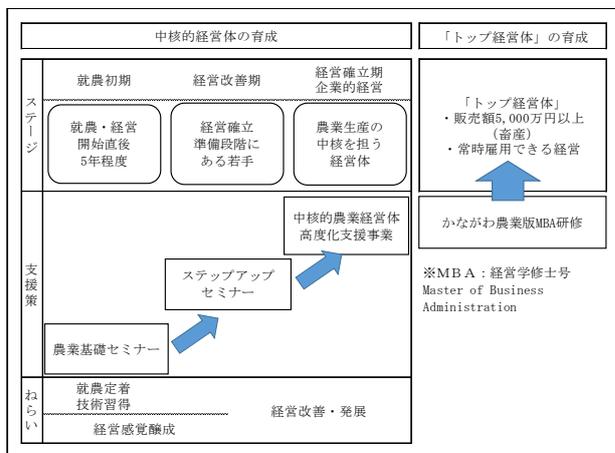


図2 農業の担い手育成支援事業

このため、神奈川県では農業の担い手育成支援事業（図2）を活用し、新規就農者等は基礎セミナーへの参加促進と定着に必要な基本的な技術・経営能力の向上を目標としている。基礎セミナー終了生の中から、経営改善に意欲のある農業者には経営発展に向けた経営ビジョンの作成を目標とし、また、経営ビジョンを作成した農業者は、経営プランの着実な実現を目標としている。

更に、かながわ農業版MBA研修の修了者は研修で作成した経営強化プランの実現を目標としている。

2. 活動内容

新規就農者に対しては、必要に応じて市町村、農協、農業委員会等や家畜保健衛生所と連携して支援に当たっている（図2）。

普及指導課は全体のコーディネートや家畜の飼養管理指導、市町村等は新規就農者の情報収集や、農地取得や融資相談など、家畜保健衛生所は家畜の衛生

管理指導を担当している。

なお、新規就農者が新規参入者の場合は最初のワンストップ相談窓口が農業アカデミーのため、農業アカデミーとも連携して支援に当たっている。

(1) 農業基礎セミナーによる基礎知識の習得

就農後5年以内の新規就農者に対して、農業セミナー（畜産コース）の開講式と閉講式を対面で行い、それぞれ集合研修を同時に行った。

集合研修では、畜産経営を展開する上で重要な、夏期や冬期の温度管理や家畜ふん尿処理の基礎について、講義を行った。

また、知識の習得や対策に関する現状から、現状チェック表を作成し、ワークポイントを明らかにした上で、普及指導員との質疑や新規就農者同士の活発な情報交換を行った。また、現状チェック表で明らかとなったワークポイントについて巡回指導を実施した。飼料給与、繁殖技術、自給飼料生産などの個別の課題について、現地指導を行った（酪農11、肉牛2、養豚3、養鶏5）。

(2) ステップアップセミナー生の経力習得支援

取組1年目のセミナー生に対しては課題の整理、取組2年目のセミナー生に対しては課題の解決方法の整理、取組3年目以降のセミナー生に対しては、経営ビジョンの作成についてそれぞれの段階に応じて支援を行った（酪農3、肉牛1、養豚2、養鶏1）。

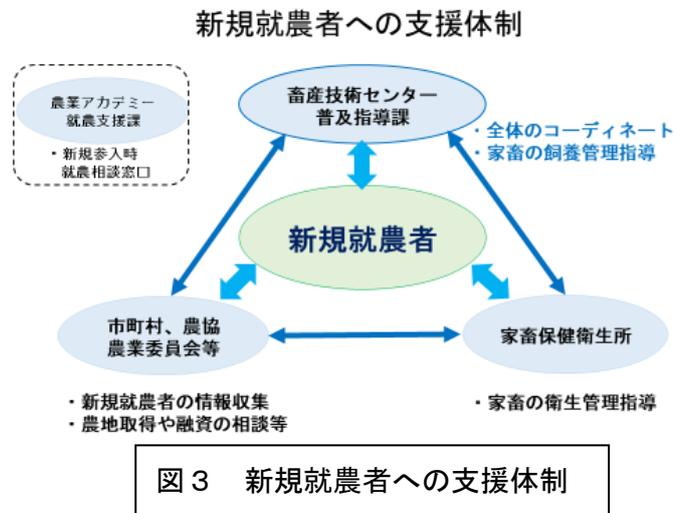
各々の経営体で個別指導を通して意見交換や情報提供を実施した。

(3) 経営発展を目指す中核的な経営体の支援

中核的な経営体の支援では、経営プランを作成済の経営体4（酪農2、養豚1、養鶏1）について支援した。酪農については、繁殖成績や経営状況を確認し、収益性を高めるために後継牛生産と肉用子牛生産の組み合わせについて助言した。また混住化の進んだ本県の畜産経営では、環境対策が必要不可欠であることから、養豚、養鶏については家畜ふん尿処理や悪臭低減に必要な施設の修繕や整備について助言した。

(4) トップ経営体を目指した経営強化プランの支援

昨年度MBA研修を受講した養鶏農家1戸について、経営強化プラン達成に向けた支援を行った。具体的には農場が都市部に位置するため、ハエの対応や



臭気対策等の持続的な経営継続のための環境対策についての助言・情報提供を行った。

また、各段階のセミナー生に呼びかけ、養鶏及び酪農の合同視察研修を1回行った。

3. 具体的な成果

(1) 農業基礎セミナーによる基礎知識の習得

新規のセミナー生（就農1～2年）に対する支援を重点事項として取組を行った。セミナー生同士の交流を推進するために開講式、研修会などの集合研修、閉講式を実施するとともに、巡回指導の充実を図った。これらの活動を通じて、新規就農者の定着と知識や技術の習得につながる取組を進めることができた。

(2) ステップアップセミナー生の経営力習得支援

ステップアップセミナーにおいては、農家毎の経営力に応じて段階的な指導を実施し、解決すべき課題の整理、解決方法の整理ができた。経営プラン作成できた経営体は3経営体に至った（酪農1、肉牛1、養鶏1）。

(3) 経営発展を目指す中核的な経営体の支援

中核経営体の支援については、経営ビジョン達成のための経営改善手法の検討や経営発展への動機付けを進めた。

(4) トップ経営体を目指した経営強化プランの支援

飼料価格高騰等の情勢も厳しい中、経営強化プラン具現化のための直近対応できる手法について検討を進めた。

4. 農家等からの評価・コメント（A氏、B氏、C氏）

県内の畜産を支えていく担い手の育成は非常に重要であり、課題と目的は適切に設定されている。計画はきめ細かく設定されており、限られた人数で県内を精力的に巡回し、活動している。（A氏）

後継者に対してだけでなく、後継者の親子間の話合いの場を活動の中で設けてほしい。（B氏）

より参加しやすい集合研修のためオンラインの導入を検討してほしい。（C氏）

5. 普及指導員のコメント

飼料設計の変更等、経営判断が必要なときには、親子間の話合いの場を設けている。今後は、親子に対して事前説明を必ず行い、計画的に親子間の話合いの場を設定する。集合研修は、会場参加とオンライン参加のハイブリッドでの開催を検討する。個々の経営体の状況を把握した上で、農業所得も留意しながら普及活動を行っていきたい。

（神奈川県畜産技術センター・副技幹・前田高弘）

6. 現状・今後の展開等

セミナー生によって技術レベルに違いがあるので、個別巡回を強化することで、技術レベルの向上を図る。今後の取組として、集合研修の参加者増に向けた取組（WEB併用開催）を行うとともに、後継者育成を通じて厳しい社会情勢に対応できるよう、助言・支援を継続する。